

進歩する内視鏡

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）で 広がる内視鏡治療の可能性

内視鏡の治療はどのように進歩しているのでしょうか。湘南東部総合病院・消化器科、守田誠恵医師のお話をうかがいました。

画像は細かく鮮明に

「最近、非常に内視鏡技術は進歩しています。」

今後の治療の主役になるかもしれない内視鏡。いったいどんなものなのでしょうか。

内視鏡とは、外から見えない身体の中を、先端にレンズのついた管を差し入れて観察や治療をする医療機器です。耳、鼻、尿路など体中の穴から内視鏡による観察は可能ですが、その中でも消化器では口や肛門を

通じて食道、胃から大腸までを観察し、癌などの病気の診断・治療が行われます。」

胃がん治療の進歩

「従来、早期の胃癌を内視鏡で治療する場合、病変の下に生理食塩水を注入して盛り上げらせてからループ状のワイヤーで縛り高周波で切除していました。」

そのうちに、病変の周囲を切った後、病変の下にナイフを入れて直接切って、全体を剥ぎ取るようになりました。



守田 誠恵 医師
(もりた せいえ)
湘南東部総合病院
【消化器科】

この新しい方法を内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）といいます。

ESDは内視鏡の先から高周波ナイフを出し直視下に癌を残さないよう周囲の正常粘膜ごと切除する方法で、広範囲に広がる病変でも一括切除することができ、正確な病理診断も可能です。

おなかを切る一般的な外科手術と比べて患者様の負担は軽く、入院日数も約1週間で済みます。

ESDは保険適用されてから一部の病院でしか実施されていみせんでしたが、全国的な拡がりに伴い消化器専門医が常勤する当院でも標準治療として施行しています。内視鏡は今後も進歩して目が離せない分野です。」

湘南東部クリニックは月々土曜、消化器科の外来受診を受付けています。（取材協力 湘南東部クリニック 0467839111）

足の血管が浮き出ていませんか？ 下肢静脈瘤にご注意を！

足に「むくみ」「痛み」「だるさ」「足がつる」などの症状があると、下肢静脈瘤の疑いがあります。湘南東部総合病院の専門外来、香月優亮医師のお話をうかがいました。

静脈の弁に障害が…

「足の血管が、皮膚のすぐ下でポコポコと浮き上がって見えることはありませんか？ これは下肢静脈瘤と呼ばれ、静脈に血が溜まりコブのように盛り上がった起こる症状です。他にも、赤紫色の血管が網目状や、くもの巣状に広がることもあります。

心臓から足先へ送られた血液は、静脈を通じて心臓に戻ります。静脈の血管には、血液が逆流しないように弁がついており、この弁の働きに障害が起こると血

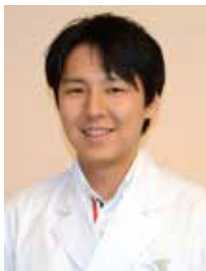
液が逆流して、下肢静脈瘤の原因となります。

手術や薬で良くなります

「下肢静脈瘤は良性の病気であり、一般的には急激な悪化や命にかかわることはありません。

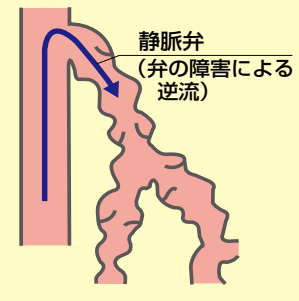
しかし、放置すると『うつ血性皮膚炎』を合併して潰瘍になったり、皮膚が硬化したり、色素沈着に進行します。また血栓が出来ることもあります。

当院では、伏在静脈（皮膚表面近くの静脈）を切除するストリッピング手術をはじめ、静脈瘤に薬を注射



香月 優亮 医師
(かつき ゆうすけ)
湘南東部総合病院
外科医長
湘南東部クリニック【下
肢静脈瘤専門外来、ソ
ケイヘルニア専門外来】

静脈瘤の発生



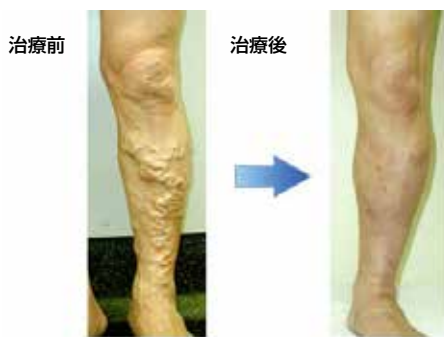
溜った血液が静脈の壁を押し伸びたり、曲がったり、膨れたりして静脈瘤となります。

して固めて治す硬化療法を行っています。

『足の血管が浮き出て見える』『足がむくむ』『痛み』『だるい』『重い』『疲れやすい』『熱感がある』『足がつる』などの症状でお困りの方は、一度『下肢静脈瘤外来』

にご相談ください。香月医師の担当する下肢静脈瘤専門外来は、毎週土曜日の午前と午後に外来診療を行っています。(取材協力 湘南東部クリニック) 0467

183-9111 (代表)



足の静脈の中の血液が心臓に戻るには、重力に逆らって上昇しなければなりません。「静脈弁」と「ふくらはぎの筋肉」がその働きを担います。何らかの理由で弁がこわれたり、筋肉のポンプ作用が弱くなったりすると血液は上昇せず静脈内に溜まっていきます。足の静脈がはれて浮き出てきます。(写真は『足健康』より)